

『新たな学校施設づくりのアイデア集』の概要

文教施設企画部施設企画課

<趣旨>

今年度から全国の小・中学校において、新しい学習指導要領の一部が先行実施され、21世紀を生きる子どもたちのための学校教育が始められています。また、近年、学校についても環境配慮が求められるなど、学校を取り巻く社会状況が変化しています。

このような状況の中、学校施設の整備に当たっては、既成の学校施設の形態の枠にとらわれない、柔軟な発想が有効です。

そこで文部科学省では、これまでに整備された学校の中から、新しい工夫があり他の学校にも参考になるとと思われる施設的なアイデアについて取りまとめました。これを全てそのまま採用するというのではなく、各学校や地域の実情に応じた様々な工夫により、教育環境が向上することをねらいとしています。

<アイデア集の構成>

本アイデア集は、30のアイデアとそれらのアイデアを活用した10の改修事例で構成

- 第1章 はじめに
- 第2章 新たな学校づくりのアイデア例
 - 新しい教育への対応(確かな学力、豊かな心、健やかな体)
 - 今日的課題への対応(環境との関わり、地域との関わり)
- 第3章 改修による学校施設の再生の例

<第2章のアイデアの一例と読み方>

期待される効果:実現できる教育活動・方法を具体的に示しています。

アイデアの要点:空間の特徴・意義、また、導入による教育面の効果・意義を解説しています。

計画のポイント:アイデアを実現するための設計・計画上の留意点を具体的に示しています。

イラスト、写真等:空間のイメージを分かりやすく示しています。

補足説明:配慮したい補足事項や代替案を示しています。

効果的に利用するための注意点:実施する際の課題とその対応策を示しています。

9. 大階段が劇場に
～表現の場にもなる多目的なスペース～

◆◆◆アイデアの要点◆◆◆

- 階段状の空間を、発表や討論などの教育活動に活用できるような計画するもの。
- 身近にある開放的な空間で、聴衆を前に自分の考えや作品について発表することで、説明し表現する力を育むことができる。

期待される効果

- 一体感・臨場感ある発表の場**
発表や討論などの教育活動や研修活動、各学年における発表や討論の場を確保し、活用することで表現する力を育むことができる。
- 子どもたちが憩う場所**
子どもたちが、憩をしながら休憩、交流することができる場所となる。

計画のポイント

- 十分な広さ、幅を確保**
集まる人数に応じた十分な広さ、幅の確保とすることが必要である。このため全体の広さや幅の確保は重要である。
- 充実した表現活動を助ける設え**
表現活動を支えるための、例えば、椅子や机、移動式卓板、自然光を調整するカーテンなどの設えが考えられる。
- 音のコントロール**
高い天井で集まる場合、そこで音が上下階にも伝わる。音調整や音響対策への配慮や、騒音の対策についての工夫が必要となる。
- 学校全体の中での位置**
校内での配置を工夫することで、表現の場と学校内の他の空間が連携し、活用しやすくなる。

図9-1 階段状の空間(福井県福井市立丸岡町中学校)

- 補足説明**
 - ・体育館やラウンジスペースにおいても、ステージなどを設けることで、より多くの発表や対話した教育活動が実施できる。
 - ・天井は「5. 構造的な留意点」参照
 - ・外を歩いている人々からも、中で見ている人が分かるようにすることで、地域との連携に資することにもなる。
- 効果的に利用するための留意点**
 - ・事前に、階段周辺の配置で行われる授業の内容を確認して、音が伝わるという課題に対応しやすくなる。

図9-2 階段での発表活動(神奈川県川崎市立はるひ野小学校)